

平成23年度 第1回社会福祉学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成23年6月28日(火) 10時00分～12時00分
II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
III. 出席者: 戸塚委員 井上委員(skype) 山路委員 天野アドバイザー
(事務局) 井端事務局長 森下主幹 松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

(1) 事務局から学士力実現に必要な授業モデル案について、以下の内容とすることが確認された。

- ・学士力は大学4年間で身に付ける力として考え、世の中の動向を踏まえて5年先を想定した授業モデル案を検討する。
- ・未知の時代を生き抜く能力を念頭にグループ学習、コラボ学習、プロジェクト学習などを取り入れ、一人の教員から教わる学習だけでなく、ICTを活用して世界中の学識ある人から学べるように工夫する。
- ・単位取得や暗記型の学びでなく、教養と専門を融合させた本質的な学びが必要である。
- ・単に基礎・基本を身につけるだけでなく、その後の関連科目で知識を活用することが大事。
- ・グループ学習での成果を、ICTを活用して学内で発表、優れたアウトカムは社会へ発信して、振り返りをさせる学習作り。
- ・上級学年によるファシリテータ導入の工夫。
- ・到達度の評価として、ICTを活用した外部試験官制度の工夫。

(2) 学びを身に付けさせる授業モデルを検討する。

- ・海外では資格が無くても、ソーシャルワークを学習した人が世界を動かしている。日本は資格制度があることでキャリア主義的になり、就職をするために資格を取得するので、社会福祉学(価値観教育)の学びが身につけていない。基礎・基本の原理・言論を理解させた上で、本来の社会福祉を身につけさせることが必要である。
- ・一市民として、自分が障害者や高齢者となったとき、技術や思想を発揮することが生涯学習につながる。
- ・振り返りの学習プロセス、学習成果をアウトカムを作り、社会への発信し、学士力実現に必要なICT活用の授業モデルを検討する。

などと踏まえ、社会福祉学委員会では2つのモデルに絞り、次回までに各委員で授業モデル案を作成することとなった。

・到達目標 1

総論型：技術的なものでなく、価値観教育に照準を合わせたイメージで作成する。

・到達目標 2

実践型：社会福祉学を通じて、社会と関与できる授業モデルとする。大学から社会へ発信して社会を変革するようなイメージで作成する。

2. 次回までの宿題

担当委員が授業モデルを作成する。

到達目標 1 について

到達目標 2 について

V. 次回の開催日程

日時：平成23年7月に2回または7月1回、8月に1回開催
 メーリングリストにて調整

場所：私立大学情報教育協会 事務局会議室または関西方面